

## なからぎ

178号

2007年1月

## 「読み書き」雑感—じっくり読んで全体を理解すること

福祉社会学部長 高原正興

さる11月24日の全学FD研究集会で、高校の先生方から興味深い報告があった。府立S高校の先生は、高校生は自分で考える学習姿勢が弱まっているというベネッセの指摘と「本よりもテレビゲーム」という余暇の選択傾向を紹介されて、「大学でも学び方の指導が必要である」と話された。また、府立M高校の先生は、国語の傾向として「漢字・語彙力が非常に弱い、基本となる読み書きの練習不足」を挙げられて、大学の導入期教育に「じっくりと文章を読ませ考えさせる講義」を要望された。私立K高校の先生は、「うちの生徒はムダを避けて大学にうかることが目的で、大学入試にある科目だから勉強する」と語られた。子どもの日本語能力の低下がつい最近のTVで報道されていただけに、現場の先生が語られた分だけ余計に新鮮に聞こえた。

ところで、私の趣味のカラオケの話にいきなり飛んで恐縮だが、かつては8トラのカセットテープに合わせたカラオケの歌詞本があった。その本の1頁ごとに1番から3番までの歌詞が載っていて、唄の展開と主張を活字を通して理解することができた。田中里の前のA店で1冊借りて帰って、歌詞の内容を「社会学」的に分析したり、一乗寺のB店では「釜山港」等の歌詞を見ながらハンゲルの勉強もした。しかし今は、TV画面に粋な唄のバックが映し出されて、唄いやすくする各種装置が備わっているが、歌詞は分節化されて全体のつながりが見えなくなった。「これは何が言いたい唄なのか」判らなくなるのは、私の老化のせいだけではないはずだ。

この二つの話題は、高校生であれ中年であれ、「一定量の文章をじっくり読んで理解する」機会が減っているという点で共通する（否、無理に共通させている）。だから、福祉社会学部の1回生「入門演習」は、主要な新書版をじっくり読んで考える機会、それをレジュメにして発表する機会を与えている点で極めて有意義であり、新教養教育プランが全学的に「新入生ゼミ」を予定していることは、導入期教育として有効であると考えられる。ただし、新書ブームのせいで巷にはありとあらゆる新書モノが溢れている。「しょうもない本」に当たらぬために、図書館と「新入生ゼミ」担当で「新書・文庫の教員推薦システム」をつくってはどうか？福祉社会学部はその10年の歴史を維持している。

(たかはら まさおき：福祉社会学部教授)

## 本にまつわる思い出

図書館運営委員 リントウルオト 正美

毎日毎日、通勤電車の中で本を読んでいる。現在は小説をよく読んでいるが、子供のころは違っていた。

小学生のころは科学の図鑑などを読んだり眺めたりしていた。シェイクスピアなどをすでに読んでいる友達もいたが、あまりに理屈っぽく、愛だの恋だのを語る場面が多い物語や小説は苦手で避けていたように思う。

小学校低学年のころにトール・ハイエルダールの「コンチキ号漂流記」を読み、人類学や科学に興味を持ち始めたのだとおもう。人はどこから来たのか？というテーマには今でも興味があり、人類学の啓蒙書などはつい手にとってしまう。冒険小説のようで一つ一つのシーンが非常に新鮮で想像を駆り立てた。未だに、魚釣りをしてシーラが自ら舟の中に飛び込んでくるシーンなど、頭に鮮やかに蘇ってくる。

子供のころ「アマゾンの干し首」の話を耳にした。「アマゾンの干し首って、何？」と思い、早速、図書館でアマゾンの首狩り族についてしらべ、さらに干し首の作り方を学んだ。南アメリカの歴史を調べるうち、ミイラつながりでエジプトの歴史を調べ、ピラミッドを作った古代の人々は天文学や数学に通じていたことをして、さらに星にも興味をもち、星を調べるうちに星座を知り、星座にまつわる話が多いギリシア神話の本もよく読むようになった。神話続きで日本の神代の本も読むようになっていった。数珠つながりで興味はつきなかった。

中学生の頃には「自分は一体何ものか、何か

の役にたっているのか、役にたつ人間になるのだろうか」と頭を悩ませるようになった。体操部に所属して練習にあけくれていたので普段は快活にすごしていたが、一人になると、鬱々と悩んでいたように思う。毎日毎日、一人で小さい頭を悩ませていたその頃、あまり本は読んでいなかった。そんな様子を心配したのか、母から井上靖の「あすなろ物語」を手渡された。読みすすめるうちに頭の中にあつた霧が徐々に晴れていくような感を覚えた。自分は一体何ものか今わからなくてもいつかはわかる時が来る、私には可能性があるのだから、と思えた。久しぶりに読んでみたが、この内容からどうして悩みが解決されたのかよくわからなかったが、読みすすめるうちに思い出した。「あすは檜になろう、あすは檜になろうと一生懸命考えている木よ。でも永久に檜にはなれないんだって。それであすなろというのよ。」このフレーズである。大変、気に入って、いつも口ずさみ励まされていたように思う。我ながら単純だったと思う。

高校生になると、小説を読むようになった。この頃の一番の思い出は父とヘルマン・ヘッセの「シッダールタ」を読んだことだ。川のながれと時間の存在についての描写が今一つじっくり理解出来ず、父と話をしたが、私が持った内容に対する印象と父のそれとが微妙に違っていたように覚えている。読む世代が違えば、本の感想、印象が違ってしまふことがよくわかった。本を読みすすめ、父と会話するのが楽しみであったことをよく覚えている。小さい子供に対する読み聞かせの重要性がよ

く言われているが、もう少し成長した子供と親で共通の本を読み、それについて語りあえる幸せについてはどうであろうか。

10代後半から、また、「自分は一体何ものか、役に立つ人間になれるのか」と思い悩むようになってきた。中学生の頃よりも自分の限界のようなものを感じ、それについて深く悩むようになっていたように思う。あの頃は少しこ難しい本を読むと賢くなったような気がして、好んで読んでいたように思う。カミュが好きでよく読んでいたが（内容を理解しているかはともかく）、中でも「ベスト」が好きであった。夜の暗い海を主人公とその友人で泳いでいくシーンが非常に印象的であった。非常に短いシーンで半ページほどのシーンであるのに暗く冷たい海を沖へ泳いでいく二人が目に見えなかった。ベストで町を閉鎖（隔離）された状態での閉塞感と医者であるのに事態を收拾出来ないもどかしい状況で暗い海を泳いでいく。暗い海、暗い空であるはずなのに何故か、主人公たちには海のかなたに明るい光のようなものが見えているのではないだろうかと思えた。自分のおかれている状況に非常に似ている感があり、感動を覚えた。

大学院生のころにサルトルの「悪魔と神」を読み大変感動した。確か、中世のドイツを舞台にした戯曲であったと思う。もう絶版になっており、私が読んだ本はその当時、非常に仲のよかった友人に貸し、そのままになっている。この本を貸すかわりに友人からはD.ルエールの「偶然とカオス」を借りた。友人は30歳をま

たずに亡くなってしまったので「悪魔と神」は私の手元にかえらず、「偶然とカオス」は返却出来ないままになっている。「偶然とカオス」はすぐに読まずに友人が亡くなってから2年ほどしてから読んだ。ルエールはフランスの数理論理学者でカオス研究の草分け的存在である。カオスについて自身の研究活動にまつわるエピソードをまじえながら、解説してある。この本の特徴はかなりしっかりした注釈が本の後ろにあるところである。語句の説明や参考文献などしっかり載せてあり、ここだけでも読みごたえがある。本文を読みすすめながら、何度も最後尾の注釈を参照していた。そのたびに私が気になって調べたいところに限って、線がひいてあることに気付いた。友人がひいたものであった。私たちは非常に気が合い、いろいろなことに興味をもって、よく夜分まで話し合った。将来の夢についても語り合い、10代のころに感じた閉塞感など完全に忘れ、自分達の無限の可能性のようなものを感じ夢までも共有していたのかも知れない。友人とは映画や本などの趣味もよく一致していた。専門分野は全く違っていたが、興味をもつところがよく似ていた。友人がひいた線や印しを見るうちに一挙にいろいろな思い出が溢れてきて、ずっと実感できなかった友人の死がのしかかってきたように感じた。私にとって、非常に大切な本ではあるが、もう一度読み返すにはまだまだ時間が必要な本である。（リントウルオト まさみ：人間環境学部講師）

ご紹介の「あすなろ物語」は「井上靖小説全集6」新潮社1972年刊（請求記号913.6III6）に掲載、「シッタータ」草思社2006年刊（請求記号943.7IHH）、「ベスト」は「世界文学全集37」新潮社1971年刊（請求記号908IISII37）に掲載、「悪魔と神」は「サルトル全集15」人文書院1965年刊（請求記号952.7IIS）、「偶然とカオス」岩波書店1993年刊（請求記号417.1IIR）は2階閲覧室入口の新着図書コーナーに配架しておりますのでご利用ください。

# 図書館お役立ち情報

# 第1回 CiNii編

何回かに分けて知らないと思える？図書館情報を紹介していきます。

第一回目はCiNii(サイニイ)です。「府大もやっと電子ジャーナルが使えるようになったけれど、洋雑誌だから私には関係ない」と思っている方にお勧めです。

CiNii (<http://www.nii.ac.jp/>)は日本の学術論文情報を総合的に検索することができ、一部は本文をPDFで見られる論文情報ナビゲータです。(書誌約990万件中約270万件は本文へナビゲートしています。

2006.4.1 時点の件数)

使い方の詳細は「CiNiiの検索マニュアル」をご覧ください。(2006.12.25 に検索画面が大幅リニューアルされました。)

検索例 ロンドンの外債市場について書かれた論文を探す

## 画面① 検索

### 簡易検索

表示件数:  表示順:

全件  本文あり  本文/他サービスリンクあり

### 詳細検索

表示順:

全文  本文/他サービスリンクあり

### 検索窓

検索窓の組合せ

出版年  年から  年まで

本文があるものだけを限定した検索ができるようになりました。

- ・ キーワードや著者名、論文名、雑誌名等から検索できます。
- ・ 一覧表示件数の変更や、並べ替えもできます。
- ・ 詳細検索では出版年の範囲指定や検索エリアの追加が可能です。

## 画面② 一覧表示

検索結果: 該当件数132件です。1~2件を表示。 最新の記事 前の25件へ

検索条件 簡易検索ロンドン 外債 市場

表示条件 (本文あり)

出版年で絞り込む

表示順(出版年(新しい順/古い順) | 雑誌名(月別/年度)

- [11000066565]鈴木俊夫  
戦間期のロンドン外債市場 前川淳教授退任記念  
三田学芸研究 43(6),129-144,2001.0223[ISSN 0344571X] (廣理研)  
■収録データベース: NII-ELS  
■本文: CiNii
- [110004088194]玉置紀夫  
ロンドンの松方正義: ロンドン金融市場と日英同盟(田村茂教授退任記念号)  
三田学芸研究 37(1),47-54,1994.0423[ISSN 0344571X] (順大商学協会(編)/慶応義塾大学商学会/慶應義塾大学)  
■収録データベース: NDL NII-ELS  
■本文: CiNii

本文: CiNii をクリックすると本分がPDFで閲覧できます。

画面③ 文献書誌

HOME > 文献書誌 > 引用情報

収録誌

金融財政

No.9604 (2004/8/19) pp.10~16  
時事通信社

書誌情報

国際資本移動と国債リスク--19世紀ロンドン市場から(6)戦費調達、国債整理に相次ぎ新外債発行

富田 俊基<sup>1</sup>

本文を読む・探

Webcat Plus

NCID文ID (JARC)  
40006347371  
NCID誌ID (JARC)  
ANH 0029174  
本文言語コード  
JPN  
NDL雑誌記号ID  
0549889900  
NDL雑誌分類  
ZD18(経済--金融)  
NDL雑誌記号  
Z3-872  
収録DB  
NDL

書出し  
Refer/B&E形式  
BbTe形式  
タブ区切りテキスト

・収録誌と論文・著者の情報が表示されます。論文を取寄せ依頼される時に記入していただく事項です。

・ をクリックすると所蔵館がわかります。府大に無いのを確認したら府大図書館 HP から論文取寄せ依頼をしましょう！(HPからの依頼には事前にパスワードの登録が必要です。カウンターで申込をしてください)

・省力化のためHPからの依頼にご協力ください。公費の時はメモ欄に先生の氏名を必ず入力してください。

・ISSN/ISBNも忘れずにお願ひします。同じタイトルの資料を識別する手掛かりになります。

画面④ 複写依頼

複写依頼 **【学内】**

このページをご利用いただくには、「利用者ID」と「パスワード」を登録する必要があります。図書館2階カウンターで申請手続きを受け付けただけ事前登録をお願いします。

- ① 利用者ID・・・図書館が指定
- ② パスワード・・・各自が申請
- ③ (注) 学生が公費で申し込む場合  
(文献複写依頼)画面下の「メモ」欄に、担当教員名と講座名を必ず記入して

操作方法ヘルプ / 依頼文献検索へ / ログアウト

### 文献複写依頼

各項目を入力してから依頼ボタンをクリックしてください。  
プライバシー保護のため操作終了後は、必ずログアウトしてから、このウィンドウを閉じてください。

依頼	項目クリア
● 書名(雑誌名)	金融財政
● 論文名	国際資本移動と国債リスク--19世紀ロンドン市場から(6)
● 論文著者名	富田俊基
● 巻号	9604 ● ページ
● 出版年	2004/8/19
● 出版社	時事通信社
● ISSN	● ISBN
● 利用者番号	8000100 ● 利用者氏名
● メールアドレス	図書館
● 支払区分	私費
● メモ	CiNiiで検索

依頼 項目クリア

なお、CiNiiはサイトライセンス個人IDを登録すれば、自宅からも学内からと同じ条件で利用できます。(定額許諾コンテンツの本文までは閲覧可能)詳しくは「サイトライセンス個人IDでのご利用」をご覧ください。

<閲覧係>

## 新春雑感

今年は十二支の「亥」歳です。「い」とか「ゐのしし」とかいますね。荒々しく背中の毛を逆立てて、牙をむき「突進」する猛獣。或いは、寒い冬、暖かい「牡丹鍋」の美味しさを連想する人もいでしょう。和気清麻呂の話の中でも猪達は活躍し、「狛猪」となって今も某神社で頑張っています。大昔から日本の野山に生息し、食用にも供されていたようです。仏教の普及につれて、他の家畜等と共に肉食禁止の詔勅が出された歴史はありましたが、農作物や林作業の害敵退治として、地方の貴族や武士階級によって狩りが盛んに行われました。その後、室町時代、明との交流によって「豚」が輸入されるようになりましたが、鎖国令によって一般庶民の獣肉食を忌み嫌う風習もうまれました。日本人の生活は時代の流れと共に「猪」や「豚」と深く関わってきました。「亥の子餅」も多産な猪にあやかっただ子孫繁栄祈願でしょう。因みに、「豕」は「いのこ」とか「ぶた」と読み、干支に「豚」が入っている国々もあるのです。一方、「亥」とよく似た漢字の中には「核」があります。世界において「核問題」がこれ以上深刻化しない、なにより平和優先の「亥」歳でありますようにと願わずにはられません。(S記)

参考文献：「十二支攷」第六巻 前尾繁三郎著 思文閣出版 2000

### 図書返却について (強いお願い)

今の時期、論文執筆や試験もようやく一段落したことと思います。お疲れさまでした。そこで、今一度自分の周りにある図書を確認してください。

- ・ 図書館から借りている図書はありませんか？
- ・ 返却期限はどうですか？

返却期限が過ぎている図書は至急返却してください。

貸出冊数の増加とともに延滞図書も増加しています。本学の図書館には、図書の貸出延長の制約はありません。予約が入らない限り何度でも延長可能です。

ただし、延長手続きは必ず来館してカウンターで図書を持参して手続きをしてください。返却期限を守って利用していただきますよう重ねてお願いします。

なお、貸出中の図書を紛失や毀損した場合や何を借りたか定かでない場合も図書館閲覧室カウンターへお越しください。

### カレンダー

2007年1月							2007年2月							2007年3月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6					1	2	3					1	2	3
7	8	9	10	11	12	13	4	5	6	7	8	9	10	4	5	6	7	8	9	10
14	15	16	17	18	19	20	11	12	13	14	15	16	17	11	12	13	14	15	16	17
21	22	23	24	25	26	27	18	19	20	21	22	23	24	18	19	20	21	22	23	24
28	29	30	31				25	26	27	28				25	26	27	28	29	30	31

[1/5(金)~通常貸出実施  
(貸出冊数6冊以内、返却期限2週間以内)]  
[1/8(月)<成人の日>]  
[~1/18(木)冬休み長期貸出図書返却期限]

[2/12(月)<建国記念の日>]

[~3/16(金)冬休み長期貸出図書返却期限  
(卒業生)]  
[3/20(火)~30(金)閲覧室を休室(蔵書資料点検のため)。その間、図書の閲覧・貸出・文献複写依頼等業務全てを休止します。ただし、3階各室は使用できますので2階カウンターで申し込んでください。なお、休業中の図書の返却は、図書館1階西側の「図書返却ポスト」をご利用ください。]  
[3/21(水)<春分の日>]

# 謹賀新年

[1/29(月)~3/19(月)春休み長期貸出実施(貸出冊数6冊以内、返却期限:卒業生~3/16(金)、在校生~4/11(水))]

開館時間等		
通常開館	9:00-20:00	
冬期休業(12/25~1/10)	春期休業(2/13~4/11)	休室(3/20~3/30)
9:00-16:45	9:00-16:45	9:00-16:45
休館日	土・日・祝祭日・年末年始	